

第48回横田基地「日米友好祭」で絆深める *Strengthening bonds through 48th Japanese-American Friendship Festival*

May 22, 2024

By Senior Airman Natalie Doan
374th Airlift Wing Public Affairs

5月18日と19日、第374空輸航空団が基地を一般開放して開催した第48回「横田基地日米友好祭」に、30万2000人が来場した。

横田基地は2日間にわたり、航空機の地上展示、ライブ演奏、飲食屋台のブース、飛行展示などの催しを行い、地域住民とともに日米両国の永続的なパートナーシップを祝った。

第374空輸航空団司令官アンドリュー・ラダン大佐は、「この素晴らしいイベントは、日米両国の永続的なパートナーシップを示すものである。こうして毎年、太平洋地域で勤務する兵士や、我々の重要な任務について紹介できることを嬉しく思う。また、友好祭は横田基地に対する地元の理解に感謝を示す機会であるとも捉えている」とコメントした。

開催中、太平洋空軍のF-16バイパー実演飛行チームによる飛行展示や第459空輸中隊によるレスキュー訓練などの実演飛行が行われたほか、第36空輸中隊が2機のC-130Jスーパーハーキュリーズから陸上自衛隊の45人の空挺隊員を投下する日米の連携力を示す飛行降下展示も行われた。

航空自衛隊作戦システム運用隊司令石井浩之1等空佐は、「ラダン大佐をはじめ、これまでの米軍横田基地の司令官とともに、地域社会との相互理解を深めるため、日米の連携強化に努めてきた。ご来場の皆様に、日米双方の良いところを活かしている米空軍と航空自衛隊のパートナーシップを実際に感じていただきたい」とコメントした。

今年の友好祭には、陸上自衛隊や地元のコミュニティ、米空軍、米海兵隊、米海軍が協力した。

友好祭のようなイベントは、横田基地と周辺地域の人々を一つにし、自由で開かれたインド太平洋地域を維持する日米両国の戦力の支えとなる日米同盟を強化する。

